

会議録

名称	第5期各務原市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会（第2回）
開催日時	令和5年12月22日（金） 13:30～15:00
開催場所	各務原市役所 本庁舎 4階会議室4-3・4-4
出席者	<p>委員18名のうち、出席者17名、欠席者1名 柴崎建委員長、清水恵子副委員長、荻谷直文委員、矢野泰嗣委員、稲垣光晴委員、三宅晃教委員、小島伸夫委員、可兒正則委員、杉山正明委員、中野正勝委員、安井徳子委員、飯沼洋成委員、石原和代委員、鈴木健二委員、丹羽員代委員、相澤毅委員、加藤雅人委員</p> <p>※欠席者：細江伸央委員</p> <p>事務局：各務原市福祉政策課、各務原市社会福祉協議会地域福祉課</p>
議題及び審議・協議結果等の概要	<p>次第</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各種調査・会議等の実施結果報告及び成果指標の経年比較について (2) 報告結果からみる本市の福祉の現状及び課題について (3) 第5期計画の基本理念（案）、基本目標（案）について 3 その他 4 閉会
	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 <ul style="list-style-type: none"> ・各務原市附属機関設置条例及び第5期各務原市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱により、過半数の委員の出席があることから、本会議が有効に成立していることを報告。 ・傍聴希望者が0名であったことを報告。 ・事前送付資料の確認及び追加資料の説明。 ・委員長より開会のあいさつ。 2 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各種調査・会議等の実施結果及び成果指標の経年比較について ≪事務局より説明≫ （資料1-1、1-2、2、3-1、3-2） ≪質疑意見≫ <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1-1の7ページ（8）福祉についての考え方について、ここ数年、「福祉は、地域住民による助け合いと行政の協力によって行われるべきである」が増加していたが、今回は若干減少し、「地域住民が支え合っていく必要がある」が増加している。これをどう捉えたらいいのか悩んでいる。質問文で「福祉」

とざっくり聞いているが、もしかすると「地域福祉」だったら違った結果になったかもしれない。住民の皆さんは自分たちでやりましょうと、前向きな気持ちで、福祉をやっていこうとしていることの表れなのかと考えている。

【委員】

- ・世代によって捉え方が違うのではないかと感じた。昔であれば60代の方は仕事を辞めたら地域で活動していたが、今は再雇用などで働く人の年齢も高くなっているため、70代以上になって、ようやく地域の役をするという気持ちになっても、今度は体がついていかなくなる。若い人は現状の生活に精一杯で、人手不足解消や人材育成は難しいと感じる。若い時は若い時の思いとか、福祉や地域に対する考えも薄く、自分を振り返ってもそうであったと思う。非常に問題なのは、個人情報保護が強すぎて、近所にどういう人がいるかという情報が入りにくくなったという意見である。以前は顔が見える関係が築けており、隣の人や同じ班の人のことはよく分かっていたため、助け合いがあったが、今は分からないから手の出しようがない。そういった時代的な背景も感じられる。高齢者の独居や、ひきこもり、8050問題もそうだが、どこかの課で対応するのか、高齢と障がいに分けられるか、というとそうではなく、全世帯に共通して誰もが我が事として捉える課題が多くあり、それぞれが気持ちとして持てるような仕掛けが必要だと思う。

【委員】

- ・自治会の活動の様子を見ても、4年間のコロナによるダメージが大きい。地域の小さなグループ活動の懇親会の実施についてアンケートを取った地域があるが、半数が必要ないという結果だった。全体的にそういう意識になりつつある。一方で、連合会長などリーダーシップがある方は、「4年前の活動を全て復活する」という意気込みで取り組まれている。残念ながら「1年経ったら自治会長が変わるし」と、人間関係づくりの復活ができないのが現状である。本当に顔がみえる近所付き合いや人間関係ができるような施策を推進していく必要があると考えている。

【委員】

- ・自治会長が1年ごとで交代するため、連携しようと思っても、去年話したことが引き継がれていないので、振り出しに戻ってしまうということもアンケートから分かった。役員になると非常に負担がかかる。その見直しも検討が必要かと思った。

【委員】

- ・1年で交代する自治会長が約7割である。

【委員】

- ・地域福祉計画・地域福祉活動計画は、いわゆる分野・領域ごとの福祉ということではなく、地域そのものを作っていくための、まさに地域づくりの計画である。地域がベースにあって、それぞれの分野・領域ごとの高齢者福祉、障がい

者福祉、児童福祉などが成り立つという考えのもと進める必要がある。地域では自治会がベースにあるので、そこが機能するように何らかのアプローチをしないといけないと思う。ヒアリングやアンケートの結果というのはミクロ的な中身、回答となっているので、ここから少しずつ、全体的な理念、目標、課題設定と計画を作っていくことになる。

【委員長】

- ・まずは基礎資料として、この結果を了承ということによろしいか。
(参加委員一同) 異議なし。
- ・議事1については終了とし、続いて議事(2)を事務局から説明をお願いする。

(2) 報告結果からみる本市の福祉の現状及び課題について

《事務局より説明》 (資料4と資料1-1を併用)

《質疑意見》

【委員】

- ・議題1で見た詳細な結果を踏まえて、このような形に整理されたということである。恐らく、キーワードあるいは課題1・2・3の中にアンケート調査の結果が入ってくる。市民アンケートの自由記述の中にも貴重な意見があるので、それも含めての重点課題のまとめということになるかと思う。普段、現場で直接住民の方とやり取りしている方は、このようにまとめられると戸惑う人もいるかもしれないが、個々の対応をまとめた形が今回の資料のような表現になっている。これから策定する計画と、皆さんが実践されていることとに決して乖離はない。むしろ日々の実践の中で困っていることがあったら、地域福祉計画や地域福祉活動計画あるいは分野別の計画中に解決のヒント・糸口があるという思いで見えていただければと思う。

【委員】

- ・地域包括支援センターはアンケートを記入して、ヒアリングでも丁寧に聞き取りしていただいた。アンケートの結果について、地域包括支援センターとしては、近隣ケアグループの認知度や関心度が増えているのは嬉しいことである。地域包括支援センターができてから長い年を経っており、成果は出ているが、これからも努力をしていかないといけないと感じている。相談機関は、相談して対応するだけでなく、地域づくり、人づくりにも非常に大事な役割である。相談の窓口の認知度、関心度を高めていくことも大事だと考える。コロナの状況もあるが、それぞれの関係機関の横のつながりについて、まだまだ足りないものもあると感じている。川島地区は地域柄、高齢化率は高くないが、8050問題、ひきこもりなどの相談が最近立て続けにきている。アンケートでも複合化・複雑化している課題に関するキーワードが挙がっており、これからの活動の方向性が少しずつ見えてきたかと思う。

【事務局】

- ・ヒアリングで話を聞く中で、具体的に高齢福祉分野の窓口である地域包括支援センターでも、障がいや子どもの分野など、様々な分野にまたがるようなお話を具体的に受けていると聞いている。子ども館でも子どもだけではなく、親御さんのご相談を受けることもあるとのことだった。今回のヒアリングの中で複合的な課題というのは大きな比重を占めていたと感じている。地域の中のつながりづくり、相談を受けた時に他の機関へつなげるという意味では、つながりづくりについて市でも強化していきたいと考えている。

【委員】

- ・私たちは日頃から地域福祉活動に携わっているので、課題についてはだいぶ前から認識していて、それをどう解決するか知恵を絞って考えていると思う。これ以降、課題をどう解決していくのか、目標をどう達成していくかについて様々なアイデアを出していただければと思う。

【委員長】

- ・報告結果からみる本市の福祉の現状及び課題について承認でよろしいか。
(参加委員一同) 異議なし。
- ・議題(3)について事務局から説明をお願いする。

(3) 第5期計画の基本理念(案)、基本目標(案)について
《事務局より説明》 (資料5、資料6)
《質疑意見》

【委員】

- ・私は総合計画の策定委員会にも委員として入っているが、次期計画の「もっと」という言葉は強いのではという議論があった。地域福祉計画・地域福祉活動計画では「つながる」ということを大事にしていくということで、そこは言葉を柔らかくしている。基本理念については、社会福祉協議会も一緒であるか。

【事務局】

- ・一緒である。

【委員】

- ・下線、鍵括弧、読点、文字の大きさはどうするのか。

【事務局】

- ・詳細な部分は検討し、改めて提示させていただく。

【委員】

- ・資料に掲載しているとおり、理念の説明においては、「地域共生社会の実現」という言葉は入れていただきたい。

【事務局】

- ・はい。

【委員】

- ・「やさしさ」に「つながる」が加わって、つながってやさしさが生まれる感じがしてとても良い。社会福祉協議会のイメージキャラクターも「つなぐちゃん」なので、ちょうどマッチしている。

【委員】

- ・基本目標3の「誰もが安心して暮らし続けられるまちづくり」の内容の中で、1行目に「各種福祉サービスの質の向上を図り」という文言があるが、制度的な福祉サービスでは対応しきれない困り事や課題があると思う。市独自でオリジナルのサービスを編み出すという方向性も必要ではないか。

【事務局】

- ・市独自のものも検討しながら、いかに断らずうまく必要な支援につなげるかという、分野をまたいだ支援体制的なものもしっかりと検討していきたい。

【委員】

- ・今日の一番大事な議題である。第5期計画の基本理念（案）、基本目標（案）について承認でよろしいか。
（参加委員一同）異議なし。
- ・みなさん了解したということで審議を終了とする。事務局にはこれに基づいて基本施策や施策の方向性の原案作成をお願いしたい。また、膨大な資料が出ているので、委員の皆さまには改めてご一読いただき、何かあれば事務局に提案してほしい。

3 その他

【委員長】

- ・その他、議事以外に質問・確認事項はないか。
（参加委員一同）発言なし。
- ・今日の審議・議題はすべて終了した。進行を事務局へ返す。

【事務局】

- ・次回第3回は令和6年2月29日（木）の予定。時間等詳細は改めて連絡する。
- ・次回は本日ご審議いただいた基本理念、基本目標に基づき、さらに細かい基本施策や施策の方向性などの審議をお願いし、今年度末までに計画骨子のある程度確定できればと考えている。

8 閉会

<p>会議資料</p>	<p>資料 1-1 第 5 期各務原市地域福祉計画・地域福祉活動計画に係るアンケート調査 【結果報告書（概要版）】</p> <p>資料 1-2 第 5 期各務原市地域福祉計画・地域福祉活動計画に係るアンケート調査 【結果報告書】</p> <p>資料 2 第 5 期各務原市地域福祉計画・地域福祉活動計画に係るヒアリング調査 【結果報告書】</p> <p>資料 3-1 地域コミュニティ会議実施結果（概要）</p> <p>資料 3-2 地域コミュニティ会議実施結果（意見抜粋）</p> <p>資料 4 各種報告結果からみる本市の福祉の現状及び課題</p> <p>資料 5 各務原市総合計画 基本構想（案）の概要</p> <p>資料 6 第 5 期各務原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の基本理念（案）及び 基本目標（案）</p>
<p>備考</p>	